

スメラミコトとは

スメラミコト（天皇）とは 10

島田正路氏著「コトタマ学」上より抜粋

その 199

人間の意識の始めを古事記は詳細に説明する。「天地の初発の時、高天原に成りませる神の名は天の御中主の神（言霊ウ）・・・」人間には天与の五つの性能がある。ウオアエイの5つの母音から現われ来る。ウは欲望、オは経験知、アは感情、エは実践智、イは生命意志の世界である。5つの性能があるから、言霊学問に対する人間の態度にも5つの段階が出来る。

欲望の次元から言霊学を見ると、何だか得体の知れない、つまらないもの、と感じるであろう。「訳の分からぬ一銭にもならぬもの」という言葉が返ってくる。経験知の立場から謙虚に聞くなれば、言霊の概要は理解されるはずである。なぜだか分からぬが、言霊学の主張は本当らしい、ということにもなる。その理解された立場から見ると過去の日本と世界の歴史、社会の変動の経緯の大筋がなるほどと思われてくる。けれどこの性能からは、将来の事についての見通しは真っ暗である。過去の理解は出来るが、将来は分からない。経験知とは過ぎ去ったものについての知識の積み重ね、なのだから当然である。

以上欲望（ウ）と経験知（オ）の分際を知るためには人間が自分の生命の本性を知る必要がある。自分の知識、考え、感じ方の本体が自我であると思うことは幻なのであって、実は宇宙そのものなのだ、ということを知らなければならない。

言霊アを知ることである。その立場に立って初めて欲望と経験知の世界の、それまで気付かなかった真実の姿（実相）を知ることが出来る。この段階で人間は初めて自分自身の主人公となるのである。自分の生活に関する限り何の主義・主張にも、また霊的な影響にも依存することない文字通りの創造者となるのである。

けれどもこの段階では自分の住む社会と世界を他者としか見ることがない。更に段階が進むと、宇宙そのもの意志（言霊イ・古神道で皇祖皇宗の経綸と呼ぶ）とその原理の運用法（言霊エ）を知るようになる。今後の世界はどうなるだろう、から今後の世界をどのようなものにしていけばよいか、どのようにするか、に意識が変わる。社会と世界が他者から自己の責任の場が変わる。一人のスメラミコト（言葉を統べる人）の誕生である。

その 200 につづく